

〈隷書〉

（この課題で書体は自由。但し、この課題は一人一点のみとする）

山本飛雲先生書



〈行書〉

井之上南岳先生書



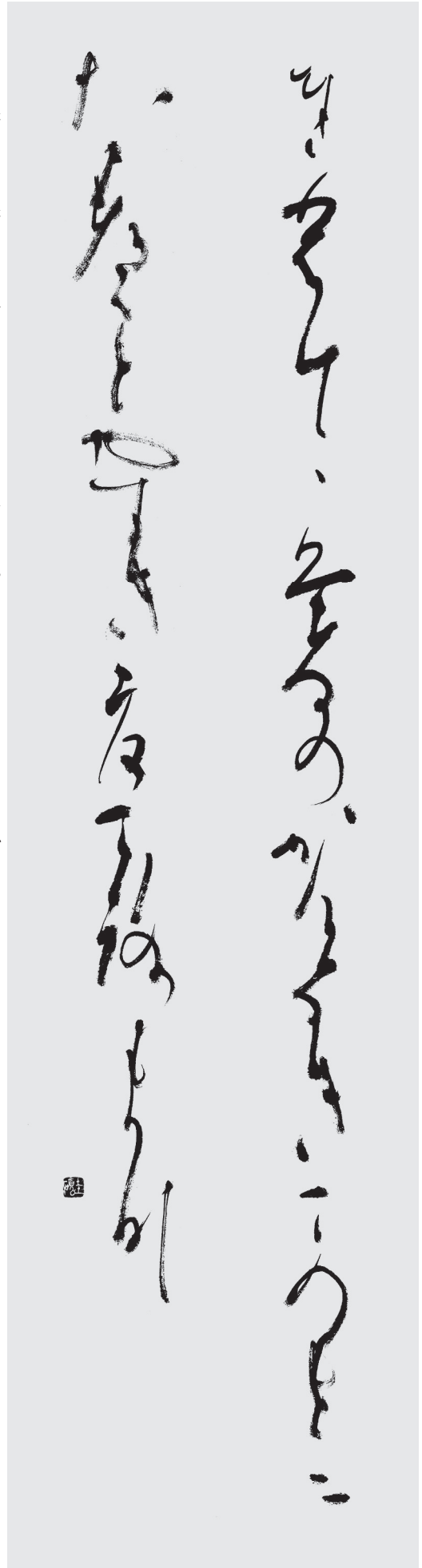
□ 丘壑^{きゆうがくかいほう}懷抱^よを寄す。

丘や谷や塵外の地に心を寄せる。

次号予告「抱甕荷鋤非鄙事 栽華移竹似清談」

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書

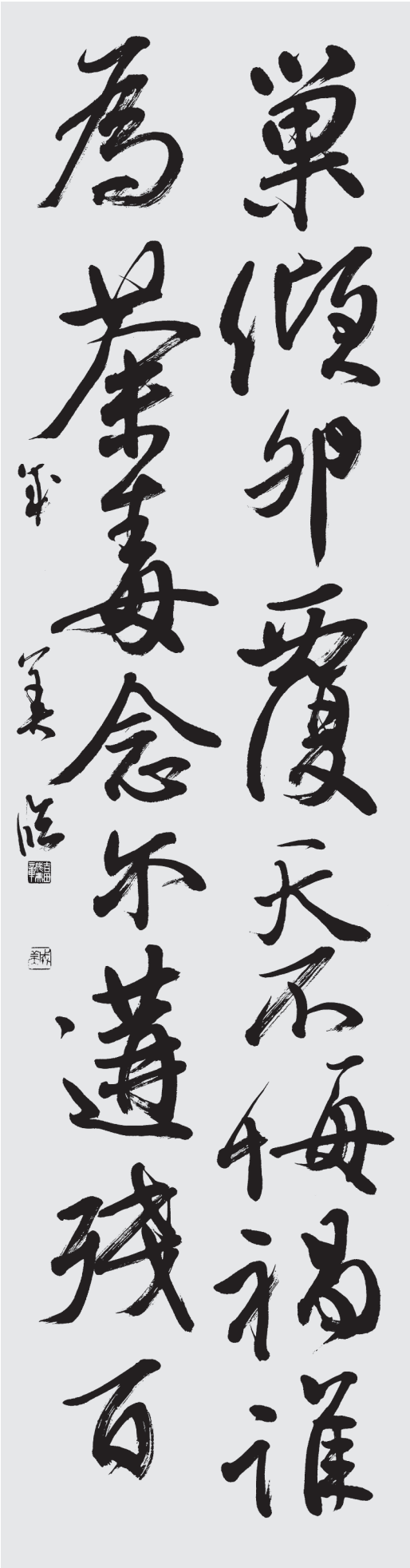


□ 遅^ちり者^はて、 盤^はな^のか^けな^き このも^と二^に た都^つこ^とや^すき 夏^{なつ}こ^ろ路^も可^{かな}那
散^ちり^はて、 花^{はな}の^かけ^なき このも^とに た^つこ^とや^すき 夏^{なつ}衣^{かな}

△新古今和歌集 一七七 前大僧正慈圓▽

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

吉田成美先生臨



▽祭姪文稿

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

巢傾卵覆天不悔禍誰爲茶毒念爾遺殘百

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

吉田成堂先生書



□「天」 草野心平の詩 人間も見えない。鳥も樹木も。出臍^{でべそ}のやうな五センチの富士。

条幅随意（半折 $\frac{1}{2}$ 縦のみ）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



清原大龍先生書

□万葉集（803年） 山上憶良^{やまのうえのおくら}
 銀^{しろがね}も 金^{くがね}も 玉^{たま}も なにせむに
 勝^{まさ}れる寶^{たから}子^こにしかめやも

「令和」は万葉集から。大伴旅人が主催したあの「梅花の宴」に山上憶良も出席していたといわれています。私の好きな憶良の歌を書いてみました。知っている方も多いと思います。

《手本（課題例）にとらわれず意欲的な作品を期待します。》

半折作品は各課目ごとに横 $\frac{1}{2}$ に一枚ずつたんで提出ください。

条幅随意（半折 $\frac{1}{2}$ ）漢字・詩文書の手本は、毎月交互の掲載となります。

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 薫風細葛涼し
くんぷうさいかつすず

初夏の風は心地よく細葛の衣服を吹いて涼しい。

薫風細葛涼し
吉田成美



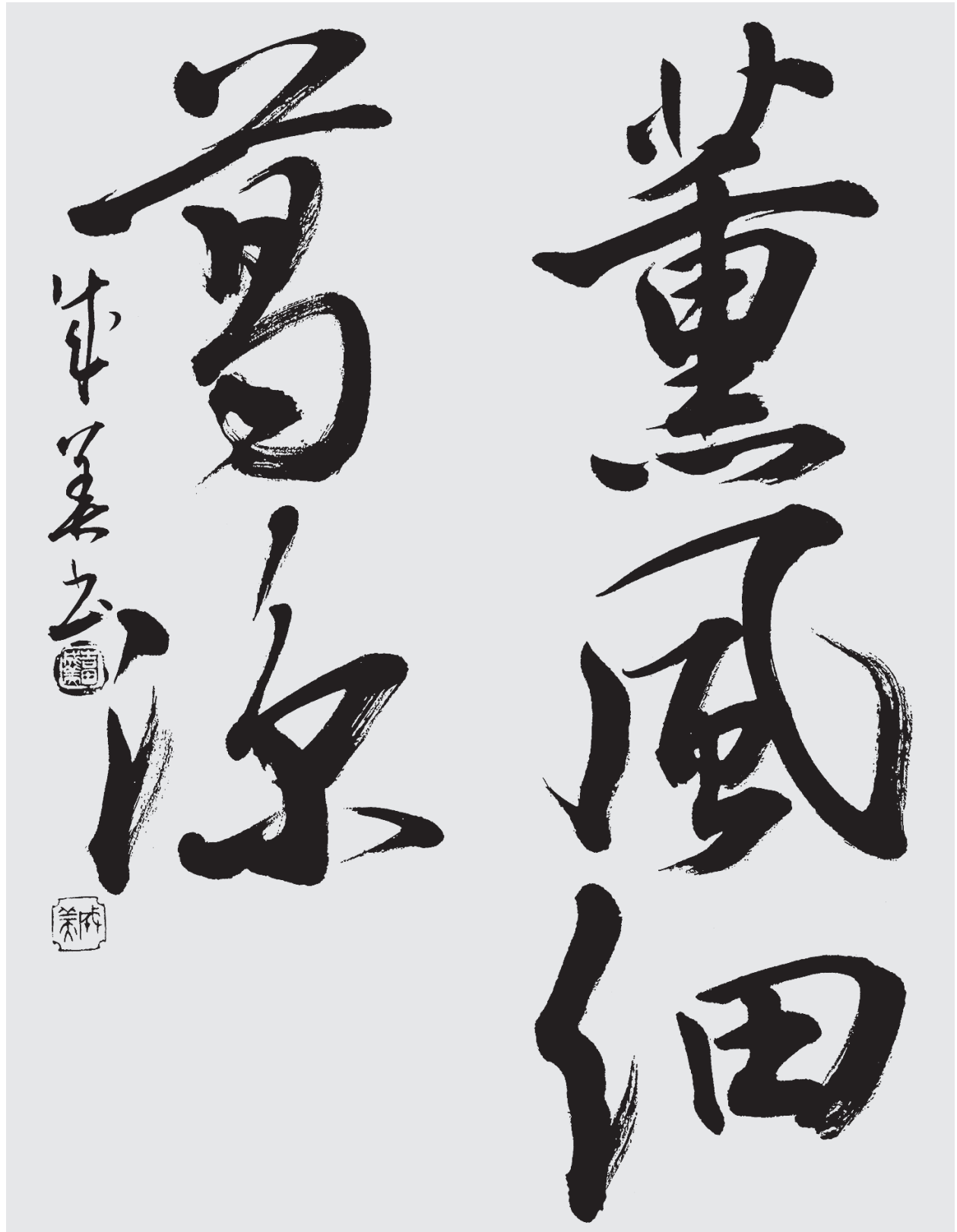
次号予告「遊魚動緑荷」

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 薫風細葛涼し
くんふうさいかつすず

初夏の風は心地よく細葛の衣服を吹いて涼しい。



次号予告「遊魚動緑荷」

吉田成美先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

半紙随意の漢字・詩文書の手本は、各月 交互の掲載となります。



□ 心如鐵石 心は鉄石の如し (柳儉)
心の堅固なること金鉄岩石の如き意。丈夫の心に云う。

吉 田 成 美 先 生 書

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課題は一人一点とする）

▽祭姪文稿



△臨書▽

顔真卿の激情を考えつつ、一気呵成に書いてみましょう

「嗚呼哀哉吾承」

吉田成美先生臨

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△ 仮 名 △

ちり者^はて、盤^はなのか介^けなき このもと耳^に 多^たつことや春^すき なつころも可^か那^な

ちり者て、
盤なのか介なき
このもと耳
多つことや春き
なつころも可那

ちり者て、
盤なのか介なき
このもと耳
多つことや春き
なつころも可那

圭

散りはて、
花のかけなき
このもとに
たつことやすき
夏衣かな

舟 尾 圭 碩 先 生 書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

半紙随意の実用書・手紙文の手本は、各月 交互の掲載となります

△手紙文▽

ホタルブクロは 梅雨時に釣鐘形の花を咲かせ その静かな風情が茶花としても好まれています子ども達が捕まえた
蛍を袋状の花に入れて持ち帰ったところから名付けられたと言われています

ホタルブクロは梅雨時に釣鐘形の花を
咲かせその静かな風情が茶花としても
好まれています子ども達が捕まえた蛍を
袋状の花に入れて持ち帰ったところから
名付けられたと言われています
紀恵

大坪桂子先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

書譜

△暮らしに役立つ書▽

今朝 通園途中に咲く紫陽花が雨に濡れて綺麗さに咲き誇っています。その後、お元気で過ごしていきましょう。

娘もようやく幼稚園にも慣れ、いろいろなことが面白くて仕方がない様子。あやめからイラストの絵本のページをめくっては、毎日親子で笑っています。

今度暇を見つけて、是非そちらに遊びに行こうと思っています。それではまた連絡致します。

草々

野のある便箋に書いてみよう。 26 cm × 18 cm 紙質は自由。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

小 畠 秋 聲 先 生 書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

	代謝も鈍り、心の時計は緩慢になる。	心と胸躍るイベントが減り、加齢で	かゆくくり進むように感じる。大人に	訪れ、心の時は細かく刻まれて、時間	子どもには未知の行事や出来事が
段 級					
氏 名					



今月のかきかたドリル

(形や注意する点に気を付けてゆへに書く。)

[illegible]

一般の方も是非チャレンジしてください。

坂元紫香先生書

（この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。）

白い雲

小学4年

木かけ

小学3年

あいさつ

小学2年

ふじ

ようねん・小学1年

紅花摘み

中学2・3年

光る木立

中学1年

感謝の心

小学6年

飛行する

小学5年

坂元紫香先生書

△条幅¼Ⅱ四尺画仙紙半折¼：68cm×17・5cm▽

□ 軽くふでをにぎって、ふでの軸^{はね}だけをまわさず、うで全体で書きましょう。



小学 二年

次号予告「サ
ラダ」

□ ハネ^{ハネ}・トメ^{トメ}・ハライ^{ハライ}などのふでづかいにきをつけて、のびやかに書きましょう。



ようねん・小学一年

次号予告「な
す」

坂 元 紫 香 先 生 書

□ あめかんむり^{あめかんむり}の形に気をつけ、や、逆の台形を意識しながらバランスよく書きましょう。



小学 四年

次号予告「はすの花」

□ 文字の布置^{ふち}に気をつけ、左払い^{ひだり}・右払い^{みぎ}をゆつくりと伸びやかに書きましょう。



小学 三年

次号予告「光」

吉 田 成 美 先 生 書

小学 五年

次号予告「雲 海」

飛行

□「飛」は中心のたて画をしつかりと。まわりの空間に気をつけ、ハネ・ハライをていねいに。

小学 六年

次号予告「働 く」

感謝

□「感」は、心の大きさ・位置に注意して。「謝」は、ほぼ三等分出さるように書こう。

秋 永 春 霞 先 生 書

中学 一年

次号予告「月 光」(行書)

本立

□楷書と異なる点画の方向や形の変化を理解し、筆脈を意識して書きましょう

中学二・三年

次号予告「輝ける未来」(行書)

紅花

□楷書とは異なる行書での部首の筆順の変化を理解し、流れよく伸びやかに書きましょう。

吉 田 成 美 先 生 書

段 級										
氏 名										
い は り い は り い は り										
に に に										
を を を										
が が が										
は は は										

小学一年

ナ ナ ナ
一 一 一

段 級										
氏 名										
か か か										
た た た										
は は は										
の の の										

ようねん (※ようねんの方は、小学一年の課題を書いてよい。但、審査は従来通りです。)

① 立ててよくかくにつける
 ナガササ遊
 行(おこな)われ (あそ)

[illegible]

小學三年

① ひきで よいせんに つける
② あいだをあける
③ はねる
④ 開平形 (かたち)

段級
氏名

し	に		に	て	し	ます。
た	。	花	の	形	は	は
色	し	花	が	た	か	し
	／＼	／＼	／＼	／＼	／＼	／＼

坂元紫香先生書

一 曲曲典
 ①左右に長く書く

一 立立宮部

木杓栏样様

小学五年

[illegible]

小学四年

小学六年

聞こえるのは、カヤツクのオール			
が水を切る音だけです。少し風が			
出てきました。白い太陽がぼっ			
と現れては、消えてゆきます。ゆっ			
くりと、きりが動いてゐのです。			
		段 級	
		氏 名	

一 戸 門 門 閤 閤
「のこぎでない」
一 十 中 出 出
一 戸 門 陽 陽

中 学

戸部君に聞わり合っている暇はな			
い。今日こそは仲直りをすると決			
めてきたのだ。はられたホスターや			
掲示を眺めるふりをしてから廊下			
で夏実が出てくるのを待った。			
		段 級	
		氏 名	

目 記 叩 叩 叩 暇
手 押 押 掲 掲 掲
目 則 則 則 則 眺

小 畠 秋 聲 先 生 書